

# おすすめICT活用事例のご紹介

区分	学年	分類	想定される学習内容	学習内容	活用ソフト
中	全	A.知識及び技能	プログラミング	アクティビティ図	プレゼンテーションソフト

授業内容

プログラム課題をアクティビティ図に表して、考えを整理するための練習をする

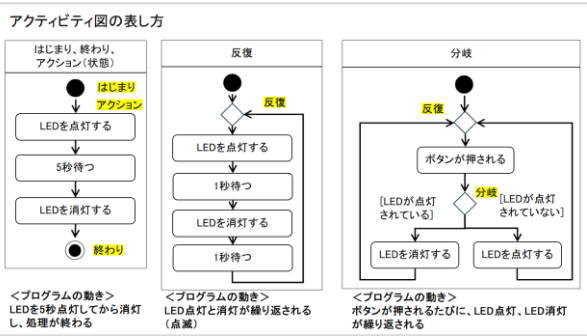
準備：

- ・提示資料を準備する。
- ・ワークシートのファイルを準備して、課題として子供たちにコピーを配付する。

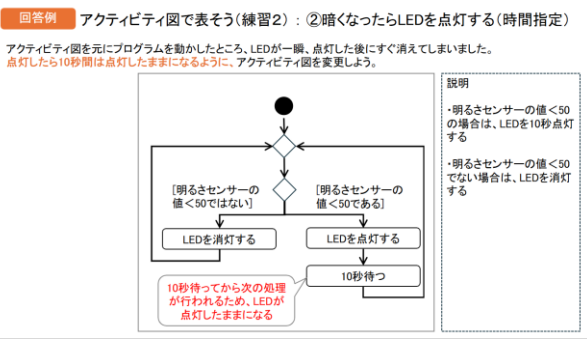
授業の流れ：

1. （提示資料）アクティビティ図とは何かを学習した後で、提示資料でアクティビティ図の表し方を確認する。
2. （ワークシート）ワークシート用ファイルを開き、練習 1 -①②で「お茶をいれる」という課題で順次処理、条件分岐をアクティビティ図に表す。
3. （ワークシート）練習 2 -①②で「明るさセンサーとLED」のプログラム課題で、反復（繰り返し）と条件分岐をアクティビティ図に表す。
4. それぞれの課題に個人で取り組んだ後で全体で回答を確認する。
5. （ワークシート）練習 2 -③で「明るさセンサーとLED」の課題解決プログラムを構想し、アクティビティ図に表す。
6. グループになり、それぞれどのようなプログラムを考えたのか個別に発表し、プログラム改善の意見を出し合う。意見をもとにして、アクティビティ図を修正する。
7. 全体で作成・修正したアクティビティ図を共有し、意見交流をする。

提示資料：アクティビティ図の表し方



ワークシート：練習 2 -②（回答例）



情報活用能力upのためのポイント	練習 2 -③で課題解決のためのプログラムのアクティビティ図を作成して、グループで意見交流することで客観的にプログラムを検証することができます。実際にプログラムを作る前に、構想やアイデアを整理することができます。
おすすめポイント	「お茶をいれる」という身近な内容をアクティビティ図に表すことで、表し方の練習をすることができます。それぞれが作成したアクティビティ図をグループで共有し、どんな動作を表しているか読み解こうとすることで、アクティビティ図への理解を深めることができます。